

第96期 報告書

平成19年4月1日 ▶ 平成20年3月31日まで

B U S I N E S S
R E P O R T

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素から格別のご支援を賜わり、厚くお礼申し上げますと共に、ここに小松精練株式会社の第96期（平成19年度）の業績についてご報告申し上げます。

連結売上高5期連続増収 営業利益は前期比15.3%増

当連結会計年度における我が国経済は、原油価格の異常なまでの急騰、また米国のサブプライムローン問題に端を発した米国経済の減速による世界経済への波及、株式市場の大幅な下落や為替相場の急激なドル安（円高）など、いわゆる、「三重苦」が企業収益を急速に悪化させました。さらに消費財の相次ぐ値上げが家計を直撃し、消費者マインドの冷え込みを招くなど、非常に厳しい環境で推移いたしました。

繊維業界におきましても、製造段階では原油価格の高騰による燃料、原材料価格の急騰によりコストが上昇し、一方、流通段階では廉価な輸入品の増加や天候不順による消費不振が加わり、最終製品への価格転嫁は困難を極めました。

このような環境の中、当社グループは「世界に冠たる先端ファブリックメーカーたらん」という方針とその実践にあたり、「越境型連邦経営」、「グローバル化」、さらに「強みを生かす事業領域の選択と集中を志向した経営資源の最適配分」、並びに「国内外の異業種企業との戦略的連携をスタート」するなど、事業構造の改革と企業体質の強化を推し進めてまいりました。

具体的には、独自開発マシンによる「テクノビンテージBB」や最上質うるし調素材「ルガーノ」、ナイロン・ポ

リエステルのマイクロファイバーを用いた高次織編物「テクノビンテージBJ」、高感性追求の「ハイブリッドシリーズ」等の新素材の積極的な市場導入と、国内外での市場開拓を推進し、ファッション、スポーツ分野を中心に大幅伸長いたしました。また、画期的なナノ技術を用いた抗アレ物質素材「アレルバスター」および「アレルビート」を主力戦略素材と位置付け、カーテンや寝装品さらには花粉対策アウターなどの用途で展開し、順調に拡大推移いたしました。しかし、リビング分野においては住宅業界の不振と不採算商品からの撤退による落ち込みをカバーし得ず、また、車輦内装分野においては中・高級車向けの生産の減少、小型車需要の拡大により、いずれも前期比若干の減収となりました。一方では国内外のグループ企業において、小松精練（蘇州）有限公司の中国ビジネスの拡大など、各社が順調に業績を伸ばし連結収益拡大に大きく貢献しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は402億45百万円（前期比7.1%増）、営業利益13億円（前期比15.3%増）、経常利益12億24百万円（前期比25.8%減）、当期純利益9億61百万円（前期比3.8%増）となりました。なお、当期の期末配当金につきましては、普通配当は1株当たり5円とし、また、今年は創立65周年にあたりますので、1株当たり2円の記念配当を実施いたします。これにより、期末配当金は1株当たり7円となり、中間配当金と合わせた年間配当金は1株当たり12円となります。

「利他」と「本気」で最先端に挑む

今後の経済見通しにつきましては、三重苦が持続し、日本経済の潮目に変化したと判断しております。特に米国のサブプライムローン問題が拍車を掛けた原油価格の異常なまでの急騰、これにともなう原材料価格や消費財価格の上昇、さらに急激な円高ドル安や株価の大幅下落によって、企業収益の悪化や消費の減退は避けられず、また、日本国内の景気を牽引していた輸出が円高の進行に伴い減速が予測されるなど、予断を許さぬ状況が継続するものと思われる。

繊維業界におきましても同様であり、この変化に対応し、当社グループが成長するためには、越境型連邦経営のスピードある実践を行い、感性とハイテクノロジーの融合による独創的繊維素材の開発に努め、国内外の市場開拓を目指します。具体的にはグループ内および産地の有力企業との戦略的連携をより高度化させ、ナノ技術や独自開発した機械設備や薬剤を駆使した先端ファブリックの開発を進め、新規市場の開拓を進めます。特に、繊維事業のグローバル展開については、現在フランス・イタリア中心に展開している直接輸出を欧州全域、北米市場に拡大していくと同時に、小松精練（蘇州）有限公司との連携を強化させていただきます。

また、当社グループの製品事業を集約した連結子会社の(株)カ・インパナと本年4月に孫会社化した水着製造販売の(株)ヤマトヤの事業領域の見直しをしつつ、製品事業の拡大に努めると同時に、当社グループの差別化素材との組み合わせによって小売市場に限りなく近い2.7次産業化をグループ全体で目指します。

一方で、原油価格や諸薬品の高騰を吸収すべく、代替材料の開発や海外調達の新なる拡大に加え、生産性の向上に

よる製造原価の低減、省エネ・省資源用機械開発、製造ラインの統廃合などトータルコストダウンに努め、収益体質の強化をはかります。また、地球環境保護に対する責務に対しても重要課題としてとらえ、温室効果ガス（CO₂）の削減、さらにエネルギー消費量の削減や産業廃棄物の減少に積極的に取り組んでまいります。

当社グループは今後も「世界に冠たる先端ファブリックメーカー」を目指し、「利他」と「本気」で最先端に挑み、更なる企業価値の向上に努める所存であります。

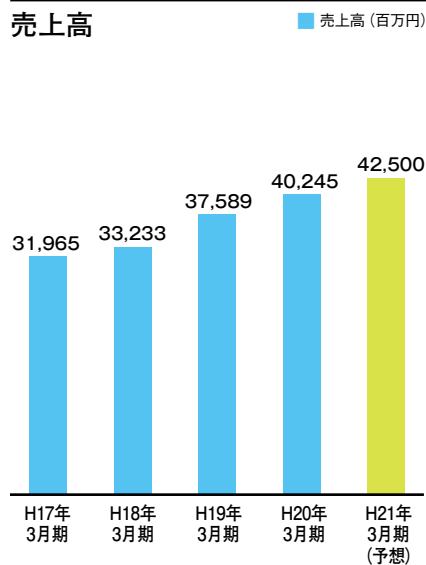
株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 中山賢一

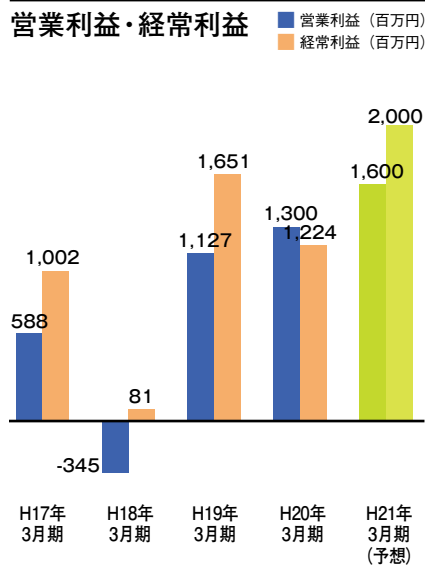


財務ハイライト

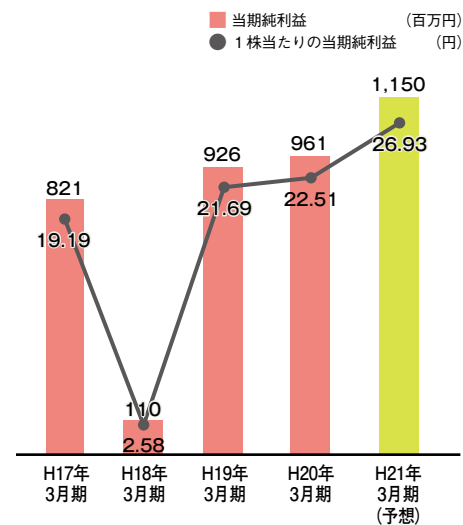
売上高



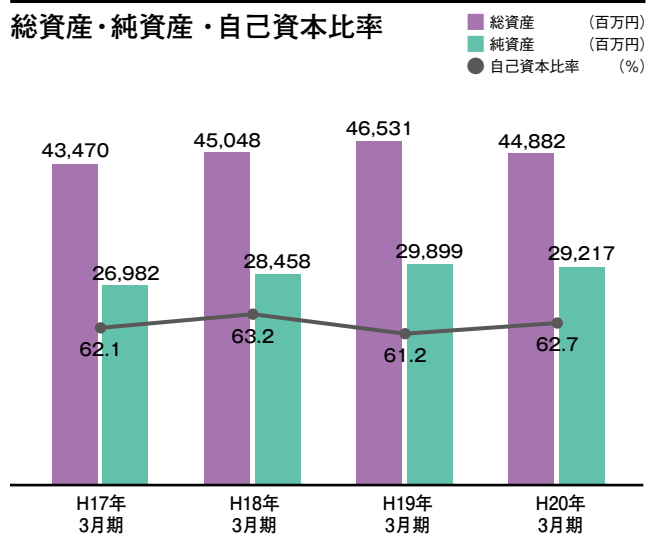
営業利益・経常利益



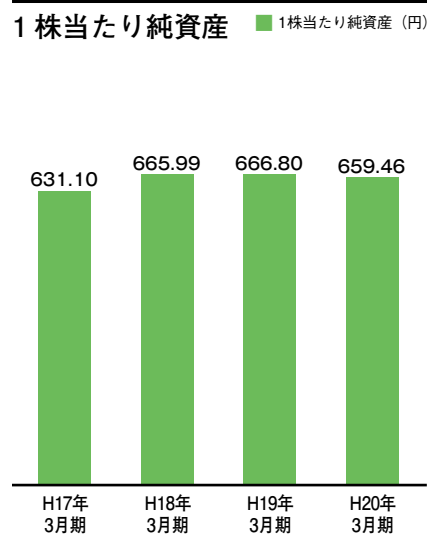
当期純利益・1株当たり当期純利益



総資産・純資産・自己資本比率

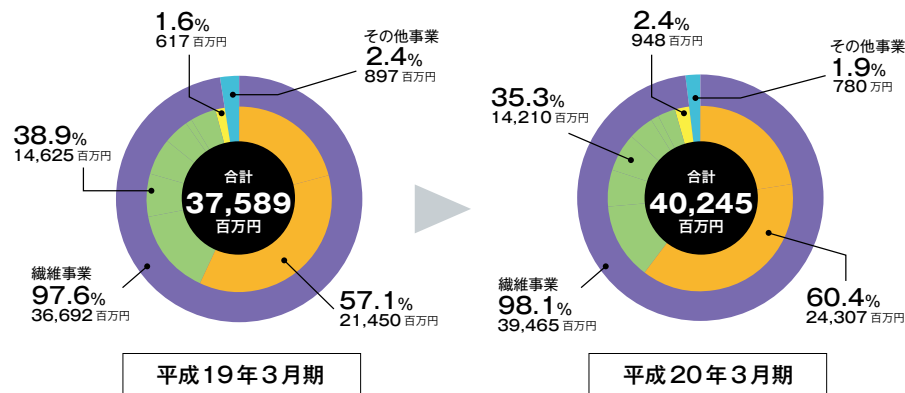


1株当たり純資産



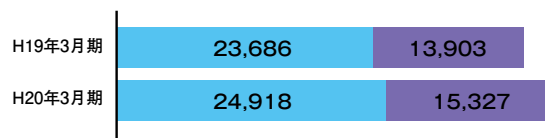
事業別売上状況

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

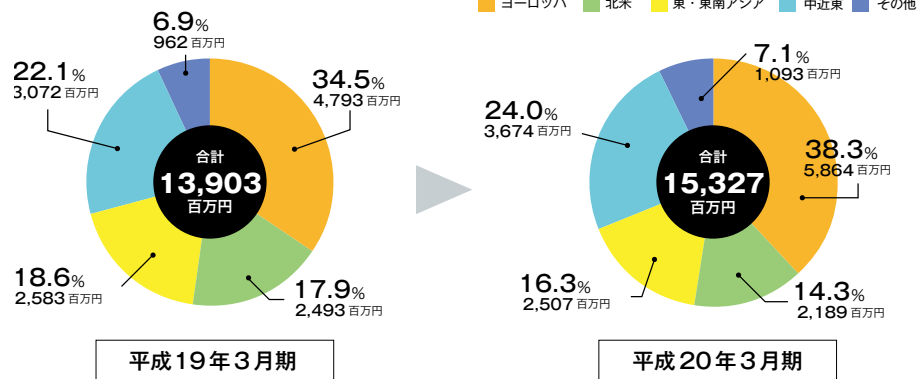
■ 衣料ファブリック部門 ■ 資材ファブリック部門 ■ 製品部門


消費地別売上状況

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

■ 国内 ■ 海外 単位: 百万円


海外売上高の内訳

■ ヨーロッパ ■ 北米 ■ 東・東南アジア ■ 中近東 ■ その他


事業別売上状況

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

■ 繊維事業

衣料ファブリック部門では、ファッション分野やスポーツ分野で「選択と集中」戦略により絞り込んだ新商品の市場導入並びに新市場・新顧客開拓を進めた結果大幅に拡大し、前期比13.3%増の243億7百万円となりました。

資材ファブリック部門では、住宅着工件数の減少によるリビング部門の落ち込みもあり、前期比2.8%減の142億10百万円となりました。

製品部門では、ODM (Original Design Manufacturer) の推進による製品染め事業・アパレル事業の拡大があり前期比53.6%増の9億48百万円となりました。

以上の結果、繊維事業は前年比7.6%増の394億65百万円となりました。

■ その他事業

生産性向上やコストダウンに努め収益性は改善したものの、売上高は前期比13.1%減の7億80百万円となりました。

消費地別売上状況

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

■ 国内海外売上高

国内売上高は、製品部門並びに衣料ファブリック分野および医療・福祉用途などが好調に推移したことにより順調に拡大し、前期比5.2%増の249億18百万円となりました。

海外売上高についても、衣料ファブリックの対欧州向けがスポーツ、ファッション分野共に拡大し、また、中東市場向けも大幅に拡大いたしました。小松精練（蘇州）有限公司の中国国内販売も増加したことにより前期対比10.2%増の153億27百万円となりました。

当社の環境に対する取組み

環境管理宣言

地球環境と小松精練の事業が 健全な状態であることを皆様にお約束します

小松精練はあらゆる事業活動領域で、人と繊維、そして自然が共生できる環境づくりと、その実現に向けて、安心で、かつ高品質な素材を責任を持って提供し続けることを追求しています。1999年4月1日、小松精練は地球環境の保護保全にむけて『小松精練環境管理宣言』を策定し、以後、環境保全および環境づくりを最重要課題としてさまざまな企業活動に取り組んでおります。

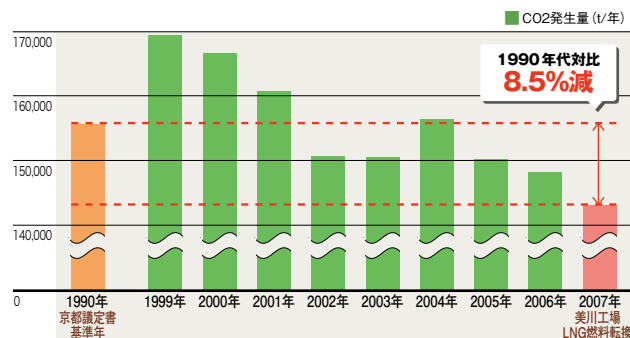
『小松精練環境管理宣言』は、私たちの作る素材を使用する“人”の健康はもちろん、地球環境の保護、エネルギーと天然資源の保全、そして、それを実行する私たち全社員が安全で健康的な職場環境を確保していくために、高品質素材の安定供給とともに、基本理念を軸として、未来永劫にわたって地球環境と小松精練の事業が健全な状態であることを皆様に約束するものです。

地球温暖化ガス削減の取組み

「チームマイナス6%」に積極的に参画

2005年2月に発効された京都議定書で、日本は2008年～2012年の温暖化ガス発生量を1990年対比で6%削減する約束をしました。当社でも温暖化ガス（二酸化炭素：CO₂）の削減に向けて、環境省推奨の『チームマイナス6%』に積極参画するなど、社員一丸となって取り組んでおります。また、2007年4月からは美川事業所において、使用燃料をCO₂発生量の少ない液化天然ガス（LNG）に全面

転換するとともに、効率的なボイラーシステムを導入しました。これにより小松精練全体で約8.5%（1990年対比）のCO₂削減を図ることができました。これは、京都議定書の目標数値6%を既にクリアしており、さらなる削減を目指して、現在、本社工場、関連会社での導入も検討しています。



—— 小松精練環境管理宣言 ——

〈基本理念〉

グローバルな視点から人間社会の繁栄と環境保護との調和を図りながら、企業責任として、健全な地球環境の保護に向けて最善を尽くすことを誓う。

〈環境保護方針〉

1. 自然環境の保全

企業活動を行うにあたっては、地域社会や自然生態系に配慮し、汚染の予防に努める。

2. 環境法令・規則の遵守

国および地方自治体の定める水質、大気、騒音、有害物質等の規制を遵守し、環境保護に最善を尽くすこと。

3. 有害物質使用の禁止

繊維素材の加工に使用する染料、薬品、樹脂については、グローバルな規準で規制されている有害物質の使用を禁止し、消費者と環境の保護に努めること。

4. 資源・エネルギーの節減と効率的利用

染色工業は水、エネルギーの多消費産業であり、環境負荷が大きいことを自覚し、節水・省エネのための設備、システム、および作業方法の改善を継続的に行うこと。

5. 産業廃棄物の削減と再利用方法の探索

社員一人一人の日常の心がけとして産業廃棄物の削減に努め、またその再利用策について工夫すること。

6. 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善

環境方針に基づいた環境マネジメントシステムの構築と継続的改善に努めること。

1999年4月1日

染色業界初の快挙

美川工場LNGプラントが 「経済産業局長賞」を受賞

2007年4月、美川工場に稼動した液化天然ガス（LNG）プラントで行った省エネの取組みが、財団法人省エネルギーセンター主催の2007年度省エネルギー月間表彰で「中部経済産業局長賞」を受賞しました。工場の排熱を有効活用するシステムを独自で構築しており、そのオリジナリティーと省エネルギー効果が高く評価され受賞に至りました。なお、当社は2005年度に続いて2度目の受賞であり、これは染色業界初の快挙でもあります。



廃棄物削減への取組み

産業廃棄物の 再利用技術開発に取り組む

小松精練は現在、経済産業省の補助事業（エネルギー使用合理化技術開発）として、有機溶剤を含む産業廃棄物の再利用技術の開発に取り組んでおり、業界初となる画期的な装置を開発しました。これは、通常ポリウレタンを主成分とする合成皮革や透湿防水フィルム素材を製造する際、生ずる産廃物（廃樹脂）から再

利用可能な有機溶剤を回収・再利用し、またリサイクルできない部分は炭化させ熱源として再利用するものです。現在の装置はパイロット段階であるため処理能力は300ℓ程度ですが、事業を拡大させ、将来的には有機溶剤を含む廃棄物のゼロエミッション化を実現させたいと考えています。

OutDry(アウトドライ)が ボルボ・スポーツデザイン賞を受賞

当社の特殊透湿防水フィルムを立体ラミネーションするOutDryテクノロジーで構成されたシューズが、ドイツ・ミュンヘンで開催された「2007年ispo[※]ボルボ・スポーツデザイン賞」のアウトドア部門で名立たるスポーツメーカーを抑えて最優秀賞に輝きました。

OutDryは、ネクステック社（伊）の開発した画期的な立体ラミネーション製法であり、当社が靴甲材や手袋インナーに使用する特殊透湿防水フィルムを独占的に提供しています。今年の選考では「持続性を持つエコ・デザイン」をテーマに全世界から応募があ

※ ispo: 世界最大のスポーツ用品とアパレルの国際見本市

り、その中でOutDryは最も機能性が高く、革新性を持ち、環境に優しい商品として最優秀賞に選ばれました。



小松精練（蘇州）有限公司が 蘇州市人民政府から「労働関係和諧企業」の認証を受ける

当社のグループ会社である小松精練（蘇州）有限公司が、今年4月、労使関係が極めて優れているA級ランクの企業に贈られる「労働関係和諧企業」の認証を蘇州市人民政

府から受けました。

同社は2004年11月に操業を開始し、労働管理が先進的であることが認められ、2005年に「A級労働保障団体」にも認定されています。



世界的高級獣毛メーカー 「ロロ・ピアーナ社」 ルイジ会長が初来社

超高級獣毛「ビキューナ」「カシミヤ」「タスマニアンウール」を使用した服地で世界の頂点に立つ、ロロ・ピアーナ社（伊）のルイジ会長が今年4月17日、新たな商品開発の打ち合わせのために初めて来社されました。小松精練では10年以上前から機能性フィルムをロロ・ピアーナ社へ供給し、「ストームシステム」という服地ブランドとして世界各国の著名なブランドへと展開されています。

イタリアの豊かな感性と日本の高いテクノロジーの融合によって、今後も新しい高付加価値素材を開発し、新たな需要を創り出していきます。



ルイジ会長（右）と中山社長

産・官連携による新技術

「シクロデキストリン」による微細特殊加工に成功

石川県工業試験場と小松精練が共同で、「ナノサイズのカップ」を合繊表面につける新技術の開発に成功しました。この技術は、中心に穴のあいた特殊な構造を持つトウモロコシ由来の天然成分シクロデキストリン（環状オリゴ糖）をポリエステル繊維の表面に固定させるもので、従来にはない全く新しい繊維の機能化技術です。シクロデキストリ

ンは、空洞部分の中に機能成分をいったん取り込んだ後、徐々に放出する性質を持っています。さらに、放出速度を調節することもでき、中に取り込む成分を変えることによって、さまざまな用途展開が可能になると期待されています。今後も官・学との共同研究を進め、製品化・事業化に向けて取り組んでいきます。

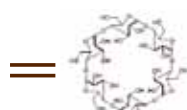
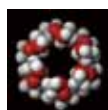
シクロデキストリンとは



とうもろこし



でんぶん



シクロデキストリン

- ・底のないバケツ状の構造を持つ天然物質
- ・内部の空洞に他の物質を取り込む性質を持つ



通常高密度繊維断面



アレルビット10³断面

企業連携による新素材

アレル物質抑制耐水素材「アレルビット10³（1000）」

小松精練は日本国内において先進的な機業場ケイター（株）と共同で、環境に優しい製法を用いたアレル物質抑制耐水素材「アレルビット10³」を開発しました。アレルビット10³の最大の特徴は①花粉アレルギーなどを引き起こす原因物質（アレル物質）を抑制する機能を搭載していること。②当社の織編物の組織を扁平に変

形する加工技術と高度な織技術によって、ノンコーティングでありながら高い耐水性を保持していること。③環境に優しい水系の撥水剤を使用した、環境配慮型高機能素材であること、です。今後も、グループ企業や他社との連携を深めながら、環境に配慮した新素材・新技術などの開発を進めていきます。

小松精練 65年の歩み

小松精練は10月8日に創立65周年を迎えます。
 これまで当社の事業活動に深いご理解とご支援を賜りました
 株主の皆様へ厚くお礼申し上げますと共に
 これまで当社が歩んできた65年間の軌跡をご紹介します。



KOMATSU

2003年9月 ブランドロゴ導入



2004年11月 小松精練(蘇州)有限公司開業



2007年11月 テクノピンテージBJ開発



2003年2月 プルミエール・ヴィジョン初出展

2008	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	1994	1993	1992	1991	1990	1989
4月	11月 7月 4月	12月 6月	11月 10月 2月	11月 8月 2月 1月	9月 7月 6月 5月 2月	4月	5月	11月 9月	10月 6月	8月	10月 9月 3月	3月	4月
株式会社ヤマトヤを孫会社化	有機EL封止部材「小松充填シート」開発 テクノピンテージBJ開発	LNGサテライト完成 小松住江テック株式会社が 株式会社ケイステックに改称	株式会社クレスポ設立 辰口地区のマテリアルデザインラボ設立 染料役者特区「ラボトリー」を 第1工場内に設立 広州ショールーム開設	電気分解方式による排水処理プラント開発 ダニアルセル物質低減加工 「アレルバスター」開発 大阪証券取引所上場廃止 小松精練(蘇州)有限公司開業	ブルミエール・ヴィジョン初出展 小松精練(蘇州)有限公司設立 工場建設開始 ミラノショールーム開設 任田賢久、第7代社長に就任、 中山社長は会長に 株式会社カ・インバナ設立 小松住江テック株式会社設立 ブランドロゴ導入	新触感素材「ピンテージ織意」開発	上海事務所開設	SSTI撤退 TKP(トーレ・コマツ・ プリンティング)合併事業開始	DIMA(複合薄膜ファブリック)開発 社章を変更	株式会社ドム設立	研究開発センター完成 株式会社コマツインターリンク設立 ファッショセンター完成 物流センター完成 天皇、皇后陛下行幸	美川工場完成	第5工場完成



1991年10月 ファッションセンター完成



1991年3月 研究開発センター完成



1955年12月 丸の内工場完成



2001年5月 上海事務所開設



1993年6月
DIMA (複合薄膜
ファブリック) 開発



1991年10月 天皇皇后陛下行幸

	1987	1986	1984	1983	1982	1980	1978	1975	1974	1973	1971	1970	1968	1965	1963	1962	1961	1955	1949	1948	1944	1943							
	6月	1月	12月	1月	6月	1月	12月	1月	5月	10月	1月	4月	6月	11月	6月	12月	10月	9月	7月	6月	12月	11月	4月	9月	2月	10月			
	中山賢一、第6代社長に就任	自家発電所完成・稼働	大阪・東京出張所を営業所に昇格、福井出張所は北陸営業所に名称変更	ケーエス染色株式会社設立	小松エージェンシー株式会社設立	東京・大阪証券取引所市場第1部銘柄指定ポリエステル改質加工「マーバス」開発	連続減量加工開始	東京証券取引所市場第2部上場	嵐正公、第5代社長に就任	本店所在地を能美郡根上町に移転	丸の内工場閉鎖	根上第3工場完成	販売課新設（自販事業開始）	第1号海外合併企業SSTI、タイに設立	大阪証券取引所市場第2部上場	株式会社トーケン設立	福井出張所開設	山本康二、第4代社長に就任	輸出貢献企業に認定	根上工場竣工	小松精練株式会社に社名変更	殿町工場閉鎖	大阪連絡事務所を大阪出張所に昇格	丸の内工場完成	大阪連絡事務所設置	武部助二、第3代社長に就任	縄平太郎、第2代社長に就任	殿町工場拡張、小馬出工場閉鎖決議	小松織物精練染工設立 初代社長…福田三次郎 本社…石川県小松市殿町口93番地 工場…殿町、小馬出町

連結貸借対照表の要旨

平成20年3月31日現在

資産の部

科 目	金 額
■ 流動資産	25,000
現金及び預金	5,885
受取手形及び売掛金	10,376
有価証券	3,397
たな卸資産	4,760
繰延税金資産	256
その他	337
貸倒引当金	△ 12
■ 固定資産	19,882
[有形固定資産]	9,515
建物及び構築物	3,194
機械装置及び運搬具	4,095
土地	1,961
建設仮勘定	39
その他	226
[無形固定資産]	278
ソフトウェア	137
その他	140
[投資その他の資産]	10,088
投資有価証券	8,341
差入保証金	122
繰延税金資産	1,535
破産更生債権	316
その他	89
貸倒引当金	△ 316
資産合計	44,882

負債の部

科 目	金 額
■ 流動負債	10,391
支払手形及び買掛金	8,573
短期借入金	269
未払法人税等	47
未払費用	464
賞与引当金	512
その他	524
■ 固定負債	5,273
退職給付引当金	4,803
役員退職慰労引当金	401
その他	68
負債合計	15,665

純資産の部

科 目	金 額
■ 株主資本	27,521
資本金	4,680
資本剰余金	4,720
利益剰余金	18,320
自己株式	△ 200
■ 評価・換算差額等	635
その他有価証券評価差額金	559
為替換算調整勘定	76
■ 少数株主持分	1,060
純資産合計	29,217
負債純資産合計	44,882

単位：百万円

連結損益計算書の要旨

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

単位：百万円

科 目	金 額
■ 売上高	40,245
売上原価	33,701
売上総利益	6,544
販売費及び一般管理費	5,244
■ 営業利益	1,300
営業外収益	592
受取利息及び配当金	176
その他	415
営業外費用	668
支払利息	3
有価証券運用損	628
その他	36
■ 経常利益	1,224
特別利益	323
固定資産売却益	161
国庫補助金収入	113
その他	48
特別損失	205
投資有価証券評価損	49
固定資産圧縮損	111
その他	44
■ 税金等調整前当期純利益	1,341
法人税、住民税及び事業税	375
法人税等調整額	55
少数株主損失	50
■ 当期純利益	961

連結株主資本等変動計算書の要旨

単位：百万円

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計		
平成19年3月31日残高	4,680	4,720	17,785	△192	26,994	1,432	52	1,484	1,420	29,899
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△427		△427					△427
当期純利益			961		961					961
自己株式の取得				△7	△7					△7
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						△872	23	△849	△359	△1,208
連結会計年度中の変動額合計			534	△7	526	△872	23	△849	△359	△682
平成20年3月31日残高	4,680	4,720	18,320	△200	27,521	559	76	635	1,060	29,217

キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位：百万円

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

科 目	金 額
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,524
税金等調整前当期純利益	1,341
減価償却費	1,478
引当金の増減額（減少：△）	85
売上債権の増減額（増加：△）	△255
仕入債務の増減額（減少：△）	315
たな卸資産の増減額（増加：△）	△631
法人税等の支払額	△713
その他	△96
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,776
固定資産の取得による支出	△1,593
固定資産の売却による収入	234
有価証券の取得・売却（取得：△）	209
投資有価証券の取得・売却（取得：△）	△632
その他	4

科 目	金 額
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△566
短期借入金の純増減額（減少：△）	△132
配当金の支払額	△426
その他	△7
■ 現金及び現金同等物に係る換算差額	2
■ 現金及び現金同等物の増減額（減少：△）	△816
■ 現金及び現金同等物の期首残高	7,301
■ 現金及び現金同等物の期末残高	6,485

貸借対照表の要旨

平成20年3月31日現在

資産の部

科 目	金 額
■ 流動資産	22,632
現金及び預金	5,175
受取手形及び売掛金	8,497
有価証券	3,397
たな卸資産	4,009
繰延税金資産	241
その他	1,318
貸倒引当金	△ 6
■ 固定資産	17,575
[有形固定資産]	5,830
建物及び構築物	1,881
機械装置及び運搬具	2,213
土地	1,524
建設仮勘定	39
その他	170
[無形固定資産]	118
ソフトウェア	98
その他	20
[投資その他の資産]	11,626
投資有価証券	6,566
子会社株式	3,416
差入保証金	103
繰延税金資産	1,451
破産更生債権	316
その他	88
貸倒引当金	△ 316
資産合計	40,208

単位：百万円

負債の部

科 目	金 額
■ 流動負債	8,040
支払手形及び買掛金	6,859
未払法人税等	25
未払費用	330
賞与引当金	480
その他	344
■ 固定負債	5,053
退職給付引当金	4,618
役員退職慰労引当金	401
その他	33
負債合計	13,094

純資産の部

科 目	金 額
■ 株主資本	26,559
資本金	4,680
資本剰余金	4,720
利益剰余金	17,358
自己株式	△ 200
■ 評価・換算差額等	555
その他有価証券評価差額金	555
純資産合計	27,114
負債純資産合計	40,208

損益計算書の要旨

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

単位：百万円

科 目	金 額
■ 売上高	32,978
売上原価	26,985
売上総利益	5,992
販売費及び一般管理費	4,869
■ 営業利益	1,122
営業外収益	501
受取利息及び配当金	269
その他	232
営業外費用	639
支払利息	0
有価証券運用損	628
その他	10
■ 経常利益	985
特別利益	398
固定資産売却益	161
国庫補助金収入	113
その他	124
特別損失	189
投資有価証券評価損	49
固定資産圧縮損	111
その他	28
■ 税引前当期純利益	1,194
法人税、住民税及び事業税	326
法人税等調整額	52
■ 当期純利益	815

株主資本等変動計算書の要旨

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

単位：百万円

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
平成 19 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	16,969	△ 192	26,178	1,427	27,605
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 427		△ 427		△ 427
当期純利益			815		815		815
自己株式の取得				△ 7	△ 7		△ 7
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）						△ 872	△ 872
事業年度中の変動額合計			388	△ 7	380	△ 872	△ 491
平成 20 年 3 月 31 日残高	4,680	4,720	17,358	△ 200	26,559	555	27,114

役員及び株式情報

役員・執行役員

平成20年6月27日現在

役 職	氏 名
代表取締役会長兼社長	中山 賢一
代表取締役副社長	蓮本 英信
取締役専務執行役員	中田 清英
取締役専務執行役員	高木 泰治
取締役常務執行役員	石倉 幸雄
取締役上席執行役員	池田 哲夫
取締役執行役員	山竹 俊樹
取締役執行役員	橋爪 諭
取 締 役	橋本 和司
取 締 役	浅葉 修
取 締 役	尾川 勝也
監 査 役	本谷 佑久
監 査 役	竹内 和也
監 査 役	香川 裕行
監 査 役	割出 雄一
監 査 役	三谷 忠興
上席執行役員	中村 正一
執行役員	奥谷 晃宏
執行役員	折本 忠
執行役員	山本 真一郎
執行役員	尾野寺 賢

発行済株式数・株主数

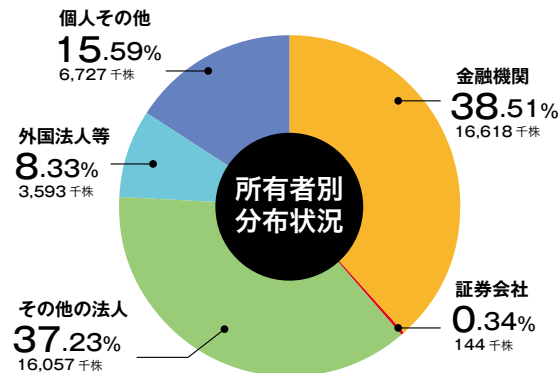
発行済株式数 ● 43,140,999 株

株主数 ● 3,281 名

大株主及び持株比率

株主名	持株数	持株比率
東レ株式会社	2,649 千株	6.14%
株式会社北國銀行	2,113 千株	4.89%
クレディ スイス ユーロ ピービー クライアント エスエフピー ブイエル	1,649 千株	3.82%
第一生命保険相互会社	1,550 千株	3.59%
日本生命保険相互会社	1,467 千株	3.40%
共栄火災海上保険株式会社	1,381 千株	3.20%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,356 千株	3.14%
三菱商事株式会社	1,250 千株	2.89%
住友信託銀行株式会社	1,230 千株	2.85%
小松精練松栄会	1,165 千株	2.70%

所有者別分布状況



会社の概況

商 号	小松精練株式会社
設立年月日	昭和18年10月8日
資 本 金	46億8,042万円
本 社	〒929-0124 石川県能美市浜町ヌ167番地
本 社 工 場	同 上
美 川 工 場	石川県白山市鹿島町1号7番地 1
大阪営業所	大阪市中央区本町 2丁目 5番7号（大阪丸紅ビル4階）
東京営業所	東京都中央区銀座 3丁目 9番 7号（トランス銀座ビルディング 8階）
北陸営業所	石川県能美市浜町ヌ167番地（小松精練株式会社 本社 2 階）
上海事務所	上海市延安西路2200号（上海国際貿易センター1913号）

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	住所変更等用紙のご請求／0120-175-417 その他のご照会 ／0120-176-417
URL	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同取次所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
1単元の株式の数	1,000株
公告の方法	電子公告の方法により行います。 http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html 上記ホームページの「電子公告」をクリックして下さい。 ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない事由が生じた場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部

グループ企業

小松精練（蘇州）有限公司 染色加工	中国・江蘇省蘇州市
株式会社ケイズテック 車輦内装材製造	石川県白山市
ケーエス染色株式会社 染色加工	石川県能美市
株式会社カ・インパナ ニットの企画販売	石川県能美市
株式会社ドム 染色加工	石川県能美市
株式会社クレスポ 染色加工	石川県能美市
株式会社コマツインターリンク 包装・倉庫・運送	石川県能美市
小松エージェンシー株式会社 保険代理店	石川県能美市
株式会社ヤマトヤ 水着の企画販売	大阪市東住吉区